

三次市教育委員会会議録

1 日 時 令和5年12月27日(水)

開会 午後1時30分

閉会 午後3時15分

2 会 場 三次市役所本館 6階603会議室

3 出席委員 教 育 長 迫 田 隆 範

委 員 小 根 森 直 子

委 員 深 水 顕 真

委 員 井 岡 直 美

委 員 藤 井 皇 治 郎

4 出席職員 教 育 次 長 宮 脇 裕 子

学校教育課長 中 村 徳 子

教育委員会事務局付課長 小 原 謙 二

教育委員会事務局付課長 藤 本 裕 佳 里

文化と学びの課長 山 西 正 晃

教育総務係長 阿 部 晶 子

文化と学びの課主任 畝 岡 あ き

5 議事日程

(1) 議案第43号 三次市地域学校協働活動推進員の委嘱について(非公開)

(2) 議案第44号 令和6年度就学児等の措置について(非公開)

(3) 協議1(仮称)三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画の骨子(案)について
(公開)

文化と学びの課長 ただいまから教育委員会会議を開催する。教育長の報告をお願いします。

迫田教育長 前回の教育委員会会議以降の状況等について、4点報告する。

1点目は12月議会定例会についてである。

市議会12月定例会は12月1日に開会し、一般質問、報告3件のほか、条例改正案、令和5年度補正予算案などの議案26件、発議3件について可決成立し、12月15日に閉会した。

一般質問は、12月4日から6日までの3日間、15名の議員が質問に立たれた。教育委員会関係では、9名の議員から29件の質問があった。質問の概要については、すでに連絡しているとおりだが、具体的な内容について数件紹介する。

徳岡議員からは不登校児童生徒の取組について質問があった。不登校児童生徒の状況や対応について記入する様式を作成し、毎月、教育委員会に報告を求め、情報共有して組織的な対応を進めていること、学校内に教室とは別の居場所を設けたり、教育支援ルームや民間のフリースクール等とも連携したりして、居場所と学びの場を確保する取組を行っていることなどを説明した。

山田議員からは、コミュニティ・スクールの推進について質問があった。急激な社会の変化に伴い、学校・地域・家庭等が一体となってひとつづくりを進め、持続可能なまちづくりにつなげることを目的に取組を進めていること、先行している校区では、コミュニティ・スクールの枠組を活用した学びの充実が図られるようになっていることなどを説明した。

重信議員からは、自転車の安全利用対策について質問があった。各学校で交通ルール順守や自主的に安全な行動ができるように交通安全教室の開催や日常的な指導を行っていること、先月発生した本市中学生の交通事故死を受けて、改めて児童生徒の交通安全確保の徹底について教育委員会からも通知をして取組の徹底を図っていることなどを説明した。

2点目は三次市教育振興基本計画の策定についてである。

令和3年度に策定した第2次三次市教育ビジョン等を踏まえ、現在、今度5年間の教育の指針となる「三次市教育大綱」と「三次市教育振興基本計画」の一体的な策定を進めている。

これまでに、策定懇話会を2度開催し、各分野の方から多様な意見を伺い、協議を行っている。

また、県立三次中を含めた市内全中学校生徒、市内3校の高等学校の1・2年生、そして市民を対象にしたアンケート調査を実施した。12月15日には、本計画の骨子案について市議会全員協議会で説明を行った。この取組については、本日協議の時間をとる。

3点目は児童生徒の活躍について報告する。

12月22日に三次市民ホールきりりで開催された広島県英語暗唱大会スピーチ部門で本市の作木中学校の生徒が第1位となったほか、広島県人権作文コンクールで三和中学校の生徒が第2席となった。また、布野中学校の生徒が考案した「アスパラクリーム大福」をふるさと納税返品にするよう市長へ提案活動を行うなど、多くの輝く姿が見られた。新聞・テレビ等の各種メディアでも三次市の多くの児童生徒の活躍を見ることができた。

また、12月9日には、子ども司書養成講座、中学生対象のイングリッシュキャンプを開催した。12月22日には全小中学校で2学期終業式を行い、冬季休業に入っている。冬休み中は、児童クラブや子ども教室で過ごす児童が多くいるので、安全・安心な生活支援を引き続き進めていく。

4点目は美術館企画展美術館企画展についてである。

奥田元宋・小由女美術館は現在休館し、設備改修工事を行っている。工事は順調に進んでおり、4月下旬を目途に工事が完了し、開館する予定である。三良坂平和美術館では、1月6日から企画展「みらさかコレクションザ・カキテ」と題した柿手春三の作品展を開催する。あーとあい・きさでは、1月7日から吉舎町内の保育所から高校までの子どもの作品展を開催する。はらみちを美術館では、1月31日まで「宗藤恵美子と5人の仲間たち」と題して、和布・古布をつかったパッチワーク作品展を開催中である。それぞれご鑑賞いただきたい。

文化と学びの課長 本日の会議は全員出席のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により本教育委員会会議が成立していることを確認する。それでは、以降の進行を教育長にお願いする。

迫田教育長 これから議事に移る。議案第43号は人事案件、議案第44号は児童生徒の就学措置に関する案件であるため、公開になじまないものとする。

いては、三次市教育委員会会議規則第14条第1項の規定により、議案第43号及び議案第44号は非公開が適当と考えるがいかがか。

委員一同 一異議なし一

議案第43号 三次市地域学校協働活動推進員の委嘱について

(人事に関する案件のため非公開)

議案第44号 令和6年度就学児等の措置について

(人事に関する案件のため非公開)

迫田教育長 続いて、協議に移る。協議1 (仮称)三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画の骨子(案)について、事務局の説明を求める。

文化と学びの課長 協議1 (仮称)三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画の骨子(案)について説明する。

一骨子(案)について説明一

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

小根森委員 教育大綱と教育基本計画は一体化はしないということか。

文化と学びの課長 事務局としても、色々と議論をしている。教育大綱と(仮称)三次市教育振興基本計画を一体とした名前をつけてもいいのではないかと、三次の教育指針を意味するような名称を考えている。

計画の構成とすれば、大綱は市長が定めるものという立て付けもあるので、理念の部分を大綱として、より具体的な部分のところが振興基本計画というような切り分け方はせざるを得ないと考えている。

迫田教育長 II2の構成をみると、基本理念と基本方針大綱部分にある。ここには、福祉とか、子育て、スポーツなど、子どもに関する施策でも市長部局が中心になってやっていくってようなものが入ってくる。もちろんその分野には教育委員会も関係することもあるが、目標、基本施策については、大綱のから落とし込んでいく必要がある。

小根森委員 他の市町のものを見ると一体化しているところが多いと感じたので、一つにしてもいいと思う。

小根森委員 教育振興基本計画の内容として、防災教育等、命を守る教育の部分を加え

ていただきたい。

迫田教育長 目標と基本施策(1)に「健康教育及び防災教育の充実」と記載しているところである。

あわせて、(2)多様な居場所や学びの場の創出で「予防的支援を含めたセーフティーネットの充実」という部分もあって、これらも含めて、早めの気づきを行っていくことも考えている。

小根森委員 全国的に自己肯定感や自己有用感が求められてきていると思うが、三次市としてはいかがか。強調してもらいたい。

井岡委員 施策の方向性の中の「自立」自分らしく生きるという部分に自己肯定感について含んでいるとも感じる。

迫田教育長 ご指摘のとおり、施策の方向性は、計画全体を貫いていく基盤としており、誰もが一人一人その幸せとか生きがいか或いは自分らしさとかいった部分をしっかりと求めていくことをめざして整理はしているつもりである。もう少し検討してみる。

小根森委員 情報発信についての主語は。

文化と学びの課長 子ども達のことであると同時に、施策の(7)に生涯の学びを支える環境の充実というところの中で、市内外の学びの窓口の集約と発信というようなところもあり、教育委員会の役割という部分もある。確かにそこがわかりづらいというご指摘だと思うので、もう少し整理が必要だと感じた。

深水委員 目標と基本施策の(2)について、できる子どもへの支援をお願いしたいと感じる。前半は就学支援の話であったが、特別支援学級が必要な児童生徒は多分全体の5%程度だと思うが、逆に知能指数が高い児童生徒も2%程度いると言われている。この2%の部分に是非触れてほしい。できる子をもっと伸ばすっていう視点をしっかり持っていただきたい。

その意味では、特別支援教育の充実とか、いじめとか、セーフティーネットということが出てくるが、これに対応する形で、できる子どもに対してどう対応していくかという部分があってもいいと思う。新たな価値の創造という面からも、この基本計画が平均化するのではなく、子どもを伸ばすものであってほしいと思う。

また、納得解という言葉出てくるが、妥協点のようなあまりいい印象を

受けない感じがする。他の言い方がいいのではないか。

教育次長 三次市子どもの未来応援宣言を作っており、可能性、希望、チャレンジの三つが重要だとしている。可能性の中には、子どもたちの可能性を伸ばすということが趣旨の中には入っているので、この計画には文言としてはっきりは書いてないが、三次市の大きな考え方の中に、子供の未来応援ということが含まれている。納得解については検討させていただきたい。

迫田教育長 子ども達一人ひとりが違うわけなので、それに応じた教育をいかにしていくかっていうことは重要である。いわゆる個別最適な学びをしっかりと充実させていくというのは、ご指摘の通りだと思う。

深水委員 アンケートの回収率74.4%は想定より低いと思うが、その理由が何か。
文化と学びの課長 高校生の方は、各学校を訪問して依頼した。ホームルームの時間に実施してもらった学校は回答率が高かった。

中学校の方も校長会等を通じて依頼した。原因の一つには、インフルエンザやコロナで学級閉鎖になっていた学年もあったこともある。学校によっては期間を延長した場合もあったが、学級閉鎖が続いたこともある。また、質問量が多く、学校だけでは終わらず持ち帰りになって回答がうまくいかなかった場合もある。この回収率は総合計画のアンケートも同じような回収率だが、紙での回収ではないという点も大きい。

今後に向けては検討していく。

藤井委員 3点質問する。

1点目、アンケート（中学生）の間4-2「いじめがある」が7.4%となっているが、どのように対応していくのか。

2点目、高校生と中学生ともに自学自習できる場所を求めているが、例えば、十日市自治連合会には2階にフリースペースがあり、無料で利用できる。Wi-Fiを設置したら、高校生の利用頻度が急激に伸びている。このような場所の情報提供も必要だと思う。駅に近い場所でもあり、会議室をもう1室開放していてもいいのではないかと思う。

3点目、基本理念のところで、「住み続けたい」となっているが、「住み続けられる三次」という時代になってきているのではないかと思う。持続可能であったり、脱炭素だという時代に、「住み続けられたらいいよね」で

はなく、「住み続けるためには、行動をとっていかないといけないんだ」というメッセージをこの言葉で示していただければいいと思う。

教育委員会事務局付課長 アンケートのいじめについて回答している部分については、各学校に情報提供して、個別対応をしている。

文化と学びの課長 中学生高校生が思っていた以上に、居場所を求めていることが分かった。すぐに、次年度で何かできるということではないが、今ある施設の新たな利用の方法等については、教育委員会部局だけではなく、各局長とともに探っていきたいと考えている。

理念の部分については今日のご意見も踏まえながら、協議を進めていく。

井岡委員 アンケートで勉強が嫌いという児童生徒が多かったことがとても悲しい。
迫田教育長 勉強は楽しいということを伝えてきたつもりだが、子どもたちの求めに答えているのかというところを感じる。引き続き考えていく。

その他なければ、協議1についてはよろしいか。

迫田教育長 これをもって本日の会議を終了する。